

FILENAME:Uinsp99.JXW
DISK:hp2001x
DATE:1999 July 1
LAST_UPDATE:..
NOTE(S):
TITLE:

=====

1995年・新車検制度対応版
乗用車のユーザー車検体験レポート / 1999

=====

概要
このレポートについて
これはユーザー車検の体験レポートです。「1995年・新車検制度対応版 / バイクのユーザー車検体験レポート-1」の乗用車版です。
ユーザー車検に挑戦しようと思って、書店を探したのですが、適当な入門書が見つかりませんでしたが、雑誌記事などを参考に手探りでエイヤツと挑戦したみたところ、1回で合格することができました。
私の場合、最初のユーザー車検は、車検にかかる費用を節約するためというより、自分の愛車をすみずみまで理解し、整備し、検査に合格するという達成感・満足感を得るためにやったようなものです。しかし、今回は車検費用の節約というのが第1だったかもしれませんが、それでも自分でオルターネーターやファンベルトを交換したので、またまた愛車に愛着が湧きました。

できるだけ正確に書いたつもりですが、一部に間違い・勘違い、思い込み、車検場による違いなどがあるかもしれません。
このレポートはhp200L X上のVzエディタ1.57a(DOS/V版)で作成しました。機種依存文字は使わないようにしました。前回のレポート(ファイル:USERシャクン.jxwやuinsp95.jxw)のような、一太郎の特殊文字は使用しませんでした。

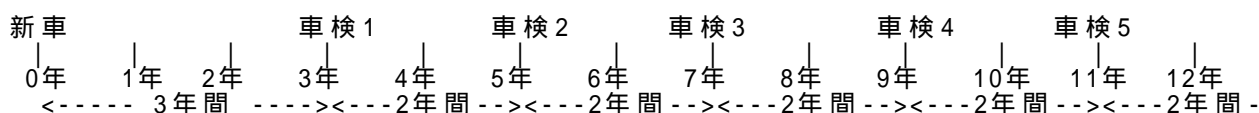
LHAで圧縮してあり、サイズはxxxxバイトです。

de GBF02411 UNI

ダウンロード・ファイル名:UINSP99.LZH

乗用車のユーザー車検について
私の車(シボレーカマロ・スポーツクーペ, 1990年型, 4986cc, V8)は、今年で9年目を迎えます。今回は図1の車検4に相当します。前回の車検3で初めてユーザー車検に挑戦しましたから、今回は2度目です。

< 図1 > 車検のスケジュール



1995年7月施行の新車検制度では、12年を越える車歴の自動車とオートバイの有効車検は、自家用の場合、従来は1年車検でしたが、これからは2年車検ですみます。

新車検制度の主な改正点は次の通りです。

- (1) 12年を越える車歴の自動車、オートバイの有効車検は自家用の場合、従来1年間だったのが、2年間になった。
- (2) 検査前に整備しなけりゃならなかったのが、検査後に不具合点だけを整備して、再検査を受ければよいようになった。

で、ユーザー車検に挑戦してみました。結果はめでたく成功です。＼(^o^)／
予約は午後13:00からのコースだったので、午前中に必要書類を作り、12:45の受け付け開始と同時に書類を提出すると、第3コースへ並ぶように言われ、バイクに乗ってコースで待つこと10分、1台の車検はだいたい5分で終わります。車検ラインは半自動化されており、パイプライン化されているので前の車がトラブルないかぎり、1~2分に1台のペースで進みます。
合格のハンコをもらって、ステッカーを受け取り、あっけなくおしまいです。13:20には車検場の出口を出て、帰途についていました。

費用

今回の費用の明細を表1に示します。

項	目	< 表1 > 今回 (1999年7月) のユーザー車検にかかった費用 頼んだ場合	ユーザー車検
---	---	---	--------

自賠責保険（強制保険） 24ヶ月	27,600円	同じ
重量税（1.5～2t級，24ヶ月）	50,400円	同じ
検査印紙代（普通乗用車）	1,500円	同じ
代書代	なし	なし
書類代	なし	30円
光軸調整	なし	1,500円
定期点検料	?円	なし
整備/パーツ交換代	?円	なし
車検代行手数料	?円	なし
合計（保険が24ヶ月の場合）	?円	81,030円 ^^^^^^

書類は代書屋を頼らず、自分で記入したので、書類代の30円で済みました。光軸調整は、ユーザー車検の最大の難関ですが、車検場のそばにはたいてい「予備検査場」という民間の検査場があります。そこで「ユーザー車検を受けるんです」といえば、親切にいろいろ教えてもらえます。かわからないようなら自動車整備振興会で紹介してもらいましょう。

事前の準備
事前に用意しておくこと、用意しておく書類など
テレホン・サービス、FAXサービスや運輸省のホームページでも詳しい案内が得られます。いずれも無料です。

テレホン・サービスおよびFAXサービス：
運輸省のホームページ：

(1) 十分な整備
検査場で不合格になっても、午前中のコースなら、午後に再検査を受けることができます。しかし、できれば1発で合格したいものです。そのためには十分な整備が必要でしょう。

(2) 車検場の予約
事前に電話などで予約しておく必要があります。練馬車検場（関東運輸局東京陸運支局の練馬自動車検査登録事務所）の場合、プッシュホンによる自動受け付けサービスが導入されました。予約は希望日の1週間前から受け付けられています。
・電話番号：(03) ??? ?
・予約受け付け時間：24時間，365日

次の四つの時間帯があります。以前は予約できる時間帯が4ラウンド制でしたが、現在は「午前」か「午後」のどちらかだけになりました。

1 R 9:00～10:15
2 R 10:30～12:00
3 R 13:00～14:15
4 R 14:30～16:00

日祝祭日は休みです。土曜日は混雑します。
午前中なら検査に落ちても、午後に再検査を受けることができます。なお、受け付けは30分前に締め切られます。

(3) 必要書類
継続検査の場合、8種類の書類が必要です。これらは添付資料-1に詳しく説明してあります。

まずは十分な整備を
私の場合、日頃からメンテナンスしているので、ほとんど整備・交換は不要なはずでした。でも、今回は車検の直前になってオルターネータが壊れたり、ファンベルトを交換したりで、冷や汗ものでした。車検の予約は木曜日の午後にしました。

(1) 各部のねじの増し締め

(2) 部品，消耗品の交換

(3) 各部の給油脂

(4) 各部の清掃

汚いと徹底的に検査されると雑誌に書いてあったので、徹底的にクリーンアップしました。

(5)各部の点検

ときどきウインカが付かない，ホーンがならないといった症状は，車検時に起きると不合格になりかねません．今回は，ファンベルトとハイマウント・ストップ・ランプを交換しました．

書類作り
車検場に行く前に記入しておくべきなのは「整備手帳」です．記入に当たって注意しなければいけないのは，空冷エンジンをチェックしたり，シャフト・ドライブシャフトのチェンスをしなしたり，冷却水・ディスク・ブレーキの交換したりといったミスをしたことですが，検査では整備手帳を開いてもくれないことがあります．ユーザー車検が盛んになった1995年ごろは，けっこう細部まで見られたことがあります．整備手帳の排ガスの欄は，予備検査場でヘッド・ライトの光軸調整のときに，ついでにお願いすれば測定してくれます．その値を記入します．2,500円です．

車検場にもっていく物

(1)添付資料-1に示す書類のうち，印のもの．

(2)印鑑

(3)税金・保険等を納めるための十分な現金を持参すること．

(4)筆記用具

検査場にも用意してありますが，下記を持参したほうが安心でしょう．

(a)HBの鉛筆かシャープペンシル

(b)黒のボールペン

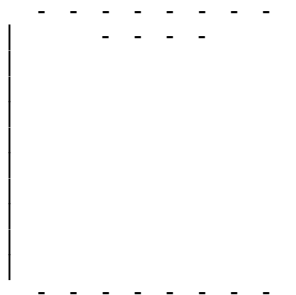
(c)消しゴム

(5)クリップ付きのバイнда

--->これはとても重要です．必要書類をまとめて提出するのに使います．プロの皆さんは全員これを持参しています．つまり，素人かどうかでコレで一目でバレてしまうのです(^-^)

官公庁の書類は平成8年度以降，A4サイズに統一されましたから，A4サイズがよいでしょう．たとえばコクヨの「ヨハ-28N A4E」などがあります．数百円です．説明だけではわかりにくいので，下記に模式図を示しておきます．

<図1>クリップ付きのバイнда



<---厚さ3mmぐらゐの化粧ボール紙でできている

車検の当日

予備検査場へ

(1)ヘッド・ライトの光軸調整

当日，車検場に入る直前に予備検査場で調整してもらいます．料金は1,500円です．「当日」に調整するのは，タイヤの空気圧や荷物の搭載量によって光軸が簡単にずれるからです．

(2)必要な排ガス検査

整備手帳の排ガスの欄は，予備検査場でヘッド・ライトの光軸調整のときに，ついでにお願いすれば測定してくれます．その値を記入します．2,500円です．

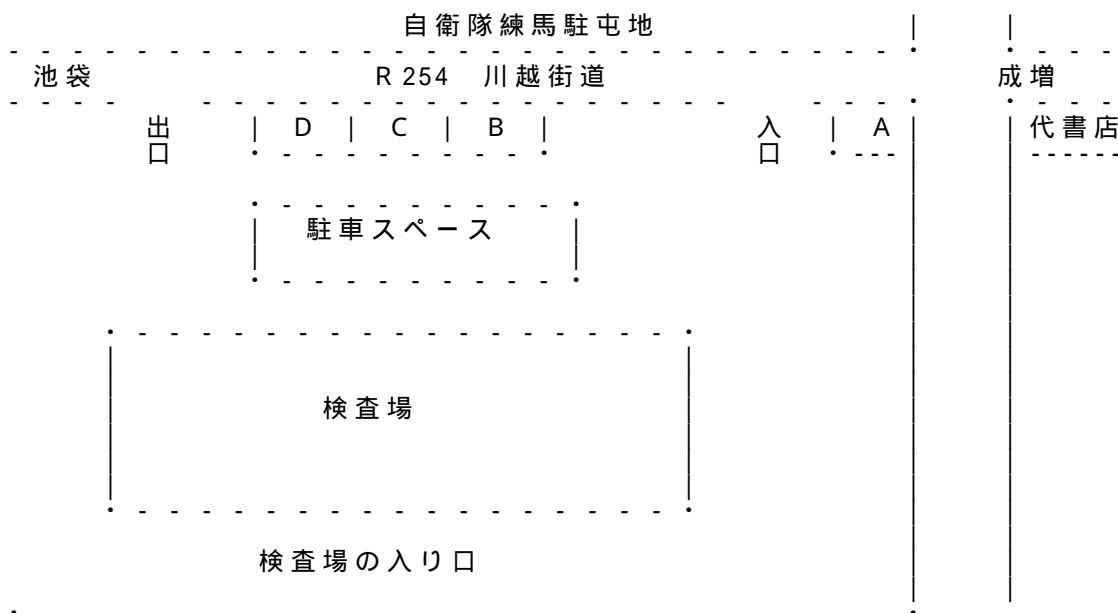
(3)ついでに強制保険（自賠責保険）

ヘッド・ライトの光軸調整は，予備検査場の整備担当者がやってくれます．数分間かかるので，その待ち時間に強制保険の更新手続きを済ませてしまえば一石二鳥です．私の経験では，たいていの予備検査場は強制保険の契約手続き代行をやっています．

(4)車検場へ

これで準備完了です．車検場へ入り，駐車場に入ります．駐車料金は無料です．

車検場の見取り図



車検場で作成する書類

(1) まず代書屋で書類を購入する

代書屋は「××行政書士事務所」などという看板がかかっていますが、車検場そばのは、車検書類の代書屋さんです。車検場の敷地の外の隣接地にあります。継続検査用の書類をくださいといえ購入できます。30円です。すかさず代書屋のおばさんは、「代書もひきうけますよ」といいますが、ことわります。(^^)

次の三つの書類です。記入方法は簡単なもので、自分で記入できます。

- (a) 継続検査申請書
- (b) 自動車検査票
- (c) 自動車重量税納付書

(2) 各書類を記入する

記入方法はA棟の受け付け（待合い室）の机の上に書いてあります。

- (a) 継続検査申請書……これだけはOCR用紙なのでHBの鉛筆で記入する。
- (b) 自動車検査票……黒のボールペンで記入する。
- (c) 自動車重量税納付書……黒のボールペンで記入する。

(3) D棟で重量税印紙と検査手数料印紙を購入する。

(4) (1)で購入した「自動車重量税納付書」に重量税の印紙を貼る。

(5) D棟で「自動車税の納税証明書」と(a)～(c)の書類を提示し、納税確認のスタンプを(c)に押してもらう。

(6) (1)で購入した「自動車検査票」に検査手数料印紙を貼る。

もし、現在の車検証に記入してある住所と、現在の住所が異なる場合、原則的には住所変更手続きが必要です。現在付いているナンバープレート（品川ナンバー）などを維持したいなら、(a), (b), (c)の住所と使用の本拠の位置は、現在の車検証の住所を記入します。

(7) 必要書類は次の順番にバインダにはさみます。1. が一番上になるようにします。

- 1. 自動車検査票……検査手数料印紙を貼付していること
- 2. 継続検査申請書……使用者の捺印または自筆署名があること
- 3. 自動車検査証……1枚に広げておくこと
- 4. 自動車重量税納付書……重量税印紙が貼付してあること
- 5. 自賠責保険証……領収印もれや記載漏れがないこと
- 6. 点検整備記録簿……点検者氏名、点検項目、点検日、走行距離などの記入漏れがないこと

(8) いちおう必要書類が作成できたなら、A棟の5番窓口「ユーザー車検」の係りの人に見てもらいます。不備があれば教えてくれます。できたなら、検査の受け付け開始時間まで待ちます。午後の検査は13:00から受け付け開始ですが、私の経験ではだいたい10分前から仕事を始めます(^^) 日本人は勤勉です。

(9)受け付け開始

必要書類を提出します。このときテレホン・サービスで割り当てられた5桁の数字の「受け付け番号」が必要です。書類に不備があれば、車検場のコース番号を教えてもらえます。練習馬車検査の場合、そのコースはコース5またはコース6です。コース5とコース6の間には見学用通路が設けられており、事前に車検のようすを見学することができます。初体験の場合は、午前中に見学し、午後のコースで検査を受けるようにしたらよいでしょう。

車検場での検査の内容
車検場ではいったいどんな検査が行われるのでしょうか？練習馬車検場での実際の検査を下記に説明します。

2年前とはガラリと設備が変わっており、試験の順番も変わりました。照光板による表示は薄汚れていて、近眼の私にとって見づらかったのですが、2色LEDを使った3色表示のLED電光表示板に変わっていました。

(1)検査コースへの行列待ちにて外観検査

前の車に続いて検査場に入ります。検査コースが何本かあって、指定されたコースの待ち行列に並びます。エンジンをかけ、アイドリング状態で待ちます。この行列に並んでいる間に検査官がやってきて、外観などをテストします。

検査官が車の前に行って、次のように指示します。

- (a)ウインカつけて、はい左、はい右
- (b)ワイパー動かして、ウインド・ウォッシャーして
- (c)はいヘッドライト
- (d)ホーン鳴らして

ここで検査官が後ろに回り、

- (e)ブレーキ踏んで
- (f)ウインカつけて、はい左、はい右
- (g)バックに入れて

検査官が運転席に近寄ってきて、

- (h)書類だして
- (i)ボンネットあけて

といわれます。

ここで検査官は書類が揃っているかどうかをチェックし、エンジン・ルーム内の車台番号が検査票と整合しているかを確認し、外観検査の合格印を押してくれます。

私の場合、ウインド・ウォッシャ液がでなかったのので、「水がでるようにしといてね」と言われました。実はめったにウインド・ウォッシャを使わないので、操作方法を間違えたため水が出なかっただけでした。でも、不合格にはなりませんでした。(^^)

(2)検査場に入る

入り口前にLEDの電光掲示板があって、これが「停止線で待機」になっていますから、停止線まで前進して止まります。「前進せよ」になったら入ります。エンジンはかけたままです。

(3)サイド・スリップのテスト

図2のように進行方向と平行に、内側に白線、外側にオレンジ色の線があります。白線とオレンジ色の線に挟まれた部分にタイヤが乗るようにして、ゆっくりと、まっすぐに直進します。途中でハンドルを切ってはいけません。これで直進できたら、前方の次の電光表示板に「サイド・スリップ」と表示されます。

< 図2 > サイド・スリップのテスト・レーンを上から見た図

===== <-- オレンジ
----- <-- 白線

--->進行方向

===== <-- 白線
===== <-- オレンジ

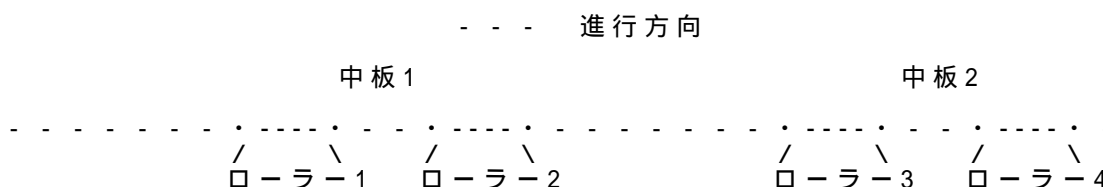
(4)スピード・メーター・テスト

次の停止線まで前進し、4輪すべてがテスト装置(シャシ・テスト)の中板(なかいた)の上に乗るようにします。このシャシ・テストはブレーキ・テスト装置も兼ねています。図3のような構造です。

ギヤを入れて時速40kmまで加速します。で、スピード・メータの指示が40km/hになったらヘッド・ライトを「パッシング」します。

実はカマロにはパッシング・ボタンがありません。2年前までのテスト装置では、パッシングの付いていない車用に押しボタンの付いたコードが天井からぶら下がっていましたが、新しい設備ではこれがなくなっていました。で、係員に尋ねると40km/hになったら、ヘッドライトをハイビームにしないといけないということでした。

< 図3 > シャシ・テストの断面構造



(5) フット・ブレーキ・テスト

次はブレーキ・テストです。(4)と同じ装置でテストします。電光掲示板の「フットブレーキはなす」でブレーキを離し、「フットブレーキふむ」でブレーキを踏みます。検査官の操作で中板が下がり、タイヤがローラーで駆動されます。タイヤがもちあがれば合格です。

(6) パーキング・ブレーキ・テスト

(5)と同様に(4)と同じ装置でテストします。検査官の操作で中板が下がり、タイヤがローラーで駆動されます。前方の電光掲示板に「パーキングブレーキをかける」と表示されたら、ブレーキをかけます。タイヤがもちあがれば合格です。

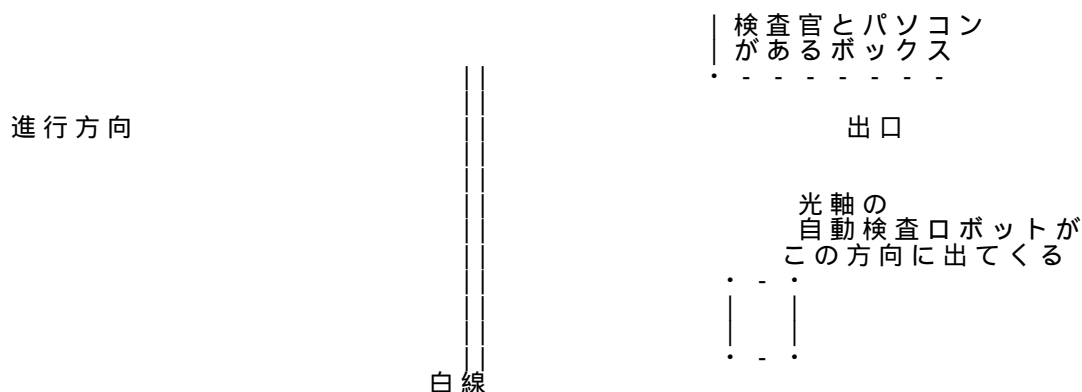
(7) 記録-1

車の進行方向右側に検査結果を記録する装置があります。ここに検査票(1500円の検査印紙が貼ってあるやつ)を差し込むと記録されます。

(8) ヘッド・ライトの検査

次にヘッド・ライトの検査の位置まで車を勧めます。ヘッド・ライトをハイビームにして検査を受けます。停止位置の前方右側から自動検査ロボットが出てきて検査します。これは右側に数秒間、左側に数秒間の時間がかかります。明るさ、光軸、配光などが自動的に測定されます。合格なら電光標示板に「右側 左側」と表示されます。

< 図4 > ヘッド・ライト・テスト・ロボット(テスト・レーンを上から見た図)



(9) 車体周りの検査

前進して次の停止線に進みます。(4)のシャシ・テストと同様に横板の真上に前輪が乗るように正確な位置に停車します。車の下には地下ピット(地下室)があって、そこから検査官が長いハンマーを使って下回りの各部をコンコンたたき、ねじの締め付け具合などをチェックします。最後に振動緩衝装置のチェックとして、横板が上下に振動して車体全体を強引に揺すぶります。

(10) 排ガス検査

前進して次の停止線に進みます。ここで運転席から出て、進行方向にむかって右側後方

の位置にある排ガス検査装置の長いケーブルを排気管に30cmほど差し込みます。だいたい15秒間ぐらいかかって検査が行われ、OKなら電光表示板に「排ガス」と表示されます。

(11) 記録-2

車の進行方向右側に検査結果を記録する装置があります。ここに検査票(1500円の検査印紙が貼ってあるやつ)を差し込むと記録されます。

(12) 書類の検査

ここまでできたら駐車場に車を置いてきます。そして、書類一式をもってコースの最後のブース内の検査官に渡します。

ここで書類を審査してもらい、合格印をもらいます。

以上で検査は終了です。ボックス内の係員に合格印を押してもらいます。

ステッカーの交付

合格印を押してもらった書類をA棟5番窓口に提出すると、その場でステッカーがもらえます。それをフロント・ウィンドウに貼ればOKです。

雑感

この車(カマロ'90 - - 通称カマロ2号)とのつきあいは、中古で購入して以来、かれこれ7年になろうとしています。以前はカマロ'89(カマロ1号)に乗っていました。カマロ'89はカマロ'90よりアメリカ的で、興味のつきない車でしたが、事故で失いました。

タイヤとブレーキ・パッドは車検2の時に交換しましたが、その後あまり運転しないので一向に減りません。

最近のカマロは、スタイリッシュになりましたが、私にとっては3rdジェネレーションのカマロがいちばん性にあっています。わずか2400rpmで最大トルクを発生する5リッターのV8エンジンは、現在の国産車にない捨てがたい魅力があります。なお、排気量4986cc(C Q hello)というのは偶然のイタズラです。

これからも大切に乗り続けていきたいと思います。(^_^) V

de GBF02411 UNI

= = = = =
添付資料 -1
= = = = =

必要書類

は車検場に行く前に用意しておくこと。 は代書屋で購入する。

継続検査の場合

(1)継続検査申請書

様式3号というマークシート用紙。

(2)自動車検査票

手数料の印紙（自動車検査登録印紙：1400円）を貼付する。

これは手数料納付書を兼ねている。

(3)自動車検査票

車検証のこと。

(4)定期検査記録簿

いわゆる整備手帳。120円

(5)自動車分解整備記録簿

これは(4)に含まれている。(4)を書き込んだとき、カーボン・コピーされる。カーボン・コピーされた箇所以外は書き込む必要はない。

(6)自動車重量税納付書

自動車重量税印紙（5,000円）を貼付する。

(7)納税証明書

自動車税を納付した際の納付書の控え（領収書）。無い場合は区役所などで発行を受ける（200円）。

(8)自動車損害賠償責任保険証明書

自動車検査証の新たな有効期限をカバーするだけの期間、保険の契約がされていることを照明する書類。強制保険。

以上の8枚の書類が必要である。なお、(1),(2),(4),(5),(6)は車検場や代書屋で入手することができる。

(8)は車検場や代書屋で購入することができる。

----- END OF FILE -----